

グランシップ出前公演

野村喜和夫

谷川俊太郎

しずおか

連詩の会

二〇一七 in 三島

四元康祐

覚和歌子

大岡亜紀

「大岡信ことば館」関連企画展

「大岡信 追悼特別展」

9月16日④～11月26日⑤

詩人・大岡信の言葉に触れ
その軌跡をたどります。

三島市出身の詩人・大岡信が提唱した「連詩」。

個性豊かな5人の詩人が、

3日間の創作期間で40編の連詩を創作。

本会では、できあがったばかりの詩を、詩人自らが朗読、解説します。

作品を通して、制作中のエピソードや、

その「ことば」に込められた世界観に触れてみませんか。

今回で18回目を迎え、しずおかが誇る文芸文化です。

●入場料 **500円** ※参加希望の方は事前にチケットをお買い求めください。(定員200名)

●チケット販売・お問い合わせ

(9/1④ 販売開始)

グランシップチケットセンター窓口

グランシップチケットセンター(☎054-289-9000 営業時間10:00～18:30/休館日を除く)

グランシップホームページ(<http://www.granship.or.jp>) ※コンビニ発券手数料無料

大岡信ことば館(☎055-976-9160)

●連詩創作 野村 喜和夫(詩人)
谷川 俊太郎(詩人)、四元 康祐(詩人)
覚 和歌子(詩人・音楽家)、大岡 亜紀(画家・詩人)

●内容 連詩の発表、朗読、解説、展示

2017年**11月12日** 日 **10:00開演**(9:30開場) 会場/大岡信ことば館

Z会文教町ビル3階ホール(JR三島駅北口より徒歩1分)

大岡信ことば館
OOKA MAKOTO KOTOBA MUSEUM

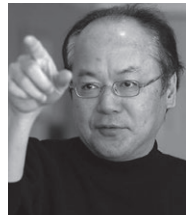
【グランシップ出前公演】

しずおか 連詩の会

二〇一七 in 三島

日本を代表する詩人・三島市出身の大岡信が提唱し、1999年から毎年開催している「しずおか連詩の会」。今年も、3年ぶりに大岡信の故郷三島市での開催です。個性豊かな詩人が集い、3日間で40編の連詩を創作します。三島の土地や時間を感じながら、それぞれの詩人がどのようなことを連ねて共鳴させるのかご期待ください。「2017年しずおか連詩の会」では、できあがったばかりの連詩を発表、詩人自らが朗読し解説を行います。創作期間中のエピソードも楽しみながら特別な時間です。

野村喜和夫
(のむらきわお)
詩人



詩集「特性のない陽のもとに」で歴程新鋭賞、「風の配分」で高見順賞、「ニョイスズレレシヨ」現代詩花椿賞受賞など。評論「移動と律動と眩暈」と及び「萩原朔太郎」で鮎川信夫賞ほか著訳書多数。英訳選詩集「Spectacle&Pigsty」に2012Best Translated Book Award in Poetry(USA)を受賞。戦後世代を代表する詩人の一人として現代詩の最先端を走り続けている。「しずおか連詩の会」では、2009年より創作の場をまとめる「しずおかしずおかしずおかし」の参加となる。

四元康祐
(よつもとやすひろ)
詩人



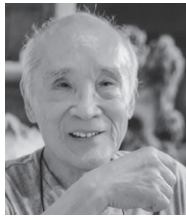
主な詩集に「単調にばたばたと、がさつで粗暴に」、「小説」、「現代ニッポン詩日記」など。連詩初体験は2003年のしずおか連詩、その後二回の熊本連詩、小池昌代との対詩「詩と生活」、田口大男との対詩「泥の層」、中国・韓国の詩人らとの「日中韓三ヶ国語連詩」(2015年)などを経て、今回のしずおか連詩は3回目。ドイツ・ミュンヘン在住。

大岡亜紀
(おおおかあき)
画家・詩人



武蔵野美術大学日本画学科卒業。岩絵具による抽象絵画を制作。個展で絵画作品と併せて詩をパネル展示する試みが続いているほか、歌人とともに、短歌と詩を連ねていく「連詩歌」制作も行っている。詩「とほぎのうた」には、二名の作曲者により、合唱曲と弾き語り用という二種類のヴァージョンの曲がつけられている。詩集に「新バベルの塔」「ある時 はじめて」「光のせせらぎ」、訳書に「ビジュアル版伝記シリーズ」の「ミケランジェロ」と「レオナルド・ダ・ヴィンチ(共訳)」がある。しずおか連詩参加は3回目。

谷川俊太郎
(たにかわしゅんたろう)
詩人



1952年第詩集「二十億光年の孤独」を刊行。1962年「月火水木金土日」の歌で第四回日本レコード大賞作詞賞、1975年「ザ・グレースのうた」で日本翻訳文化賞、1982年「日々の地図」で第34回読売文学賞、1993年「世間知らず」で第一回萩原朔太郎賞、2010年「トロンコロジー」で第一回鮎川信夫賞など、受賞著書多数。詩作のほか、絵本、エッセイ、翻訳、脚本、作詞など幅広く作品を発表。近年では、詩を釣る「iPhoneアプリ」(谷川)や、郵便で詩を送る「ポエメール」など、詩の可能性を広げる新たな試みにも挑戦している。しずおか連詩参加は4回目。

覚和歌子
(かくわかこ)
詩人・音楽家



ムンヘン・ドイツ、夏川りみ、平原綾香、Stepなど、歌詞を提供。2001年「千と千尋の神隠し」主題歌「いつも何度でも」作詞で第43回日本レコード大賞金賞。自らのバンドを率いて国内外でライブ活動を展開中。最新ソロCD「シールド」(2017, Tnomo-launch)が好評。朗読、翻訳、舞台演出、絵本創作など、詩作を軸足に活動は多岐にわたる。米国ミッドルベリー大学日本語学特別講師。最新作に詩集「はじまりはひとつのことば」(港の人)、谷川俊太郎との対詩集「DUO(仮)」(ナノク社)など。しずおか連詩参加は5回目。

連詩-RENSHI-とは?

複数人で短い詩を
リレーのように連ねていく創作現代詩。
伝統の中で培われた連歌・連句の美学を下敷きに、
新たに詩の可能性を探ろうと、
三島市出身の詩人・大岡信を中心にはじまりました。
海外でも創作される、
しずおかが世界に誇る文芸です。

「大岡信ことば館」
関連企画展

大岡信 追悼特別展

2017年9月16日(土)～11月26日(日)

【開催場所】大岡信ことば館 【入館料】大人1,000円、シニア(60歳以上)800円、学生(高校・大学生)600円、子ども(小・中学生)300円
【開館時間】午前10時～午後5時(入館は午後4時半まで) 【休館日】月曜日(祝休日の場合は開館し、翌平日休館)

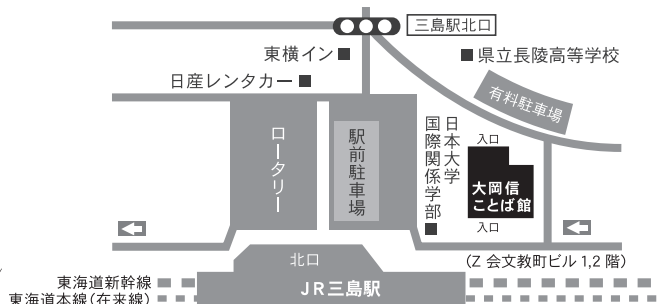
手書き原稿、写真、映像、音声など、貴重な関係資料とともに、大岡信の言葉を展示。大岡の言葉の表層に触れ、その深層に息づく詩人の内面世界を旅していただきたいと思ひます。

【交通のご案内】

- JR三島駅北口より徒歩1分
 - JR(新幹線こだま)で、東京駅より55分/静岡駅より30分/名古屋駅より110分/新大阪駅より160分
 - JR東海道線では、小田原駅より40分/静岡駅より60分
 - 車では、長泉沼津ICより15分/沼津ICより20分/裾野ICより20分
- ※車でご来場の方は、周辺の有料駐車場をご利用ください。

大岡信ことば館
OOKA MAKOTO KOTOBA MUSEUM

〒411-0033 静岡県三島市文教町1-9-11 Z会文教町ビル
TEL: 055-976-9160 FAX: 055-989-1360
E-mail: kotobakan@zkai.co.jp https://kotobakan.jp/



GRANSHIP
Shizuoka Convention & Arts Center

〒422-8005 静岡県駿河区池田79-4
グランシップ指定管理者: 公益財団法人静岡県文化財団
http://www.granship.or.jp/

ふじのくに **芸術祭**

三島市

静岡新聞 SBS